

山大医学部 病院だより



特集

医学部に社会連携講座

「高齢者の健康づくりをテーマとした
地域コホート研究講座」を開設しました

医学部に社会連携講座を開設



山口大学は、8月19日に株式会社島津製作所、花王株式会社、協同乳業株式会社、山口県、山口市との6者による「高齢者の健康づくり等をテーマとした地域コホート研究連携に関する合意書」を締結し、共同事業の推進主体として、本学医学部に「社会連携講座」を設置しました。

山口県の高齢化率（総人口に占める65歳以上の割合）は、2019年10月時点で34.3%と全国平均の28.4%を大きく上回っており（全国第3位）、以前より、全国に比べ約10年早く高齢化が進んでいると言われております。

この高齢化の課題に対応するため、2018年12月に島津製作所、山口県、山口市と本学の4者により「健康づくり等をテーマとした技術連携に関する基本合意書」を締結し、協議を進めてきました。高齢者の介護予防、加齢に伴う認知機能・移動機能などの低下予防に関して生活習慣や腸内フローラの関係性を検証することとし、新たに花

王と協同乳業の参画を経て6者による合意書を締結しました。

山口県庁において行われた締結式には、岡正朗学長、村岡嗣政山口県知事、渡辺純忠山口市長、オンラインのりモートにより島津製作所上田輝久代表取締役社長、花王長谷部佳宏代表取締役専務執行役員、協同乳業 後藤正純代表取締役社長が出席しました。

社会連携講座における研究内容

本講座では、高齢者の介護予防、加齢に伴う認知機能・運動機能などの低下を予防する生活習慣病や腸内フローラとの関係性などの検証を、地域住民を対象としたコホート研究で実施していきます。

具体的には、山口市阿知須地域に住む高齢者の皆様にご協力をいただき、定期的な運動・栄養指導・認知機能訓練を受けるグループ、ヨーグルトを毎日摂取するグループ、これまで通りの生活を続けるグループを1年半程度追

開始時

18ヶ月（1年半）

週1回集まり運動・栄養・認知機能訓練を行うグループ（40人）

指定のヨーグルトを毎日摂取するグループ（20人）

これまで通りの生活を続けるグループ（40人）



週1回集まり、指導者の下、運動、認知機能訓練を実施し、栄養指導を受けるグループ

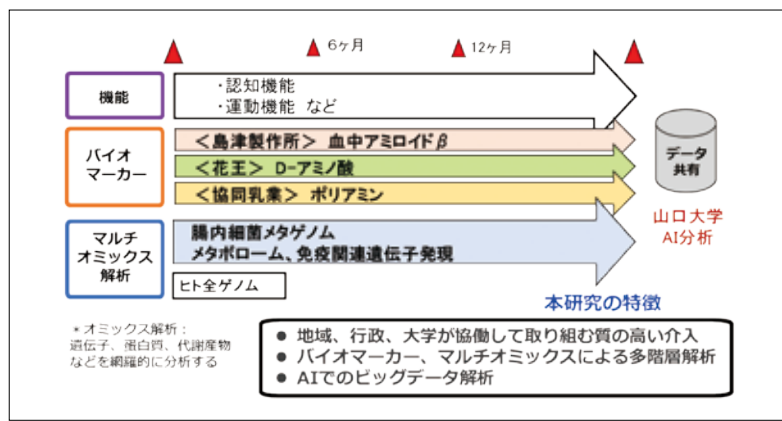


指定のヨーグルトを毎日摂取するグループ

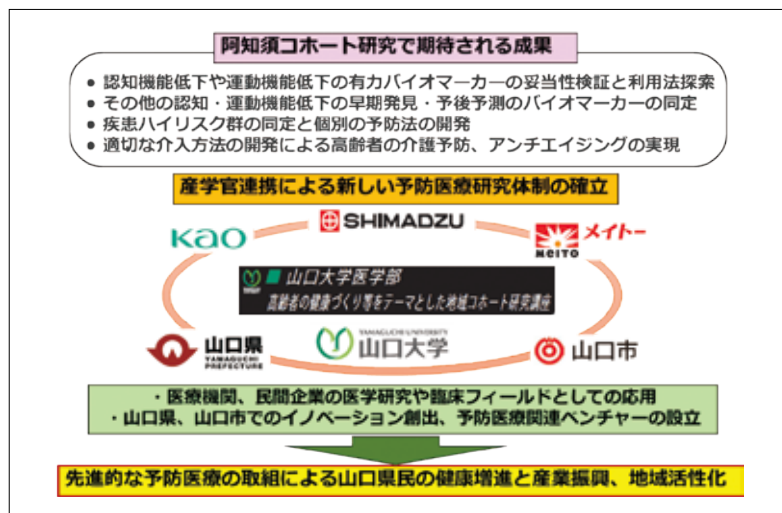
跡し、認知機能や運動機能の低下予防につながる将来の数値や機能を比較していきます。

*コホート研究・分析疫学における手法の一つで、特定の要因に曝露した集団と曝露していない集団を一定期間追跡し、研究対象となる疾病の発生率を比較することで、要因と疾病発生の関連を調べる観察的研究。

島津製作所は、クロマトグラフや質量分析計など、血液や食品などに含まれる多成分を高感度に検出する高度な技術・製品を有しており、認知症に関しては血液から高い精度のアルツハイ



マー病変（アミロイド蓄積）検出法開発の実績があります。花王は、血中のキララアミノ酸を迅速・高感度に一斉解析する技術を有しており、認知機能の変化を評価する指標として、血中に微量しか存在しないDアミノ酸が有用であることを発表しています。協同乳業は、腸内細菌叢の代謝産物解析を利用した機能性食品を開発しており、腸内細菌叢により産生されるポリアミンが老化抑制物質であることを見出しています。



地域コホート研究参加者から測定した結果を本学大学院医学系研究科・医学部附属病院のAIシステム医学・医療研究教育センターと連携して多階層分析し、島津製作所、花王、協同乳業の知見や技術をもとにバイオマーカーの検証や同定などを行います。

*ポリアミン・ポリアミンはすべての生物種の全細胞に普遍的に存在し、DNA、RNA、およびタンパク質の合成や安定化、細胞の増殖や分化など多方面の生命現象に関連しており、細胞の正常な活動のために必須の生理活性物質です。特に老年病の主要因である慢性炎症の抑制に有効で、健康寿命との関連性が注目されているほか、最近では脳機能への関与も示唆されています。加齢に伴い産生能力が低下することから、生体外から摂取することでアンチエイジング効果を得る試みがなされています。

期待される効果

この研究で、認知機能の低下や運動機能の低下の状態を示す有力バイオマーカーの妥当性が確認され、さらに新たなバイオマーカーが発見されることで、認知症や運動機能低下の早期発見、状態把握、予防法などの開発が可能となります。高齢化が進む我が国及び全世界で高齢者の介護予防が進み健康寿命の延伸が期待されます。

また、産学官連携による新たな予防医療の研究体制が確立され、地域の健康増進と産業振興、地域活性化にもつながります。

社会連携講座

—— 高齢者の健康づくり等をテーマとした地域コホート研究講座 ——



設置日/令和2年8月19日

主担当講座/医学系研究科 公衆衛生学・予防医学講座 教授 田邊 剛
講師 長谷亮佑

主協力施設/医学系研究科・医学部附属病院AIシステム医学・医療研究教育センター
センター長・教授 浅井義之

研究内容/高齢者の介護予防、加齢性疾患の抑制効果、生活習慣病と腸内フローラとの関連性についての検証

設置期間/令和2年8月19日～令和5年3月31日(約2年8カ月)

実証場所/山口市阿知須地域

自動細胞培養システムによる 医師主導治験「自己完結型肝硬変再生療法」を開始

くわしくは、
こちらへ



山口大学と澁谷工業株式会社(金沢市、以下「シブヤ」)は、肝硬変症に対する新しい治療法として、日本医療研究開発機構(AMED)や山口県等からの支援も得ながら、自動細胞培養システムを用いた肝臓再生療法を共同開発してきましたが、このたび9月に医師主導治験を開始しました。

本治験は、大学院医学系研究科消化器内科学講座・肝臓再生基盤学講座 坂井田 功 教授らの研究グループとシブヤが共同開発した「自己完結型肝硬変再生療法」です。本院で患者さんから採取した骨髄液を金沢市内のシブヤ細胞培養加工センターに輸送し、無菌操作が可能な自動細胞培養システムと国内培地メーカーと共同開発した細胞培養液を用いて、骨髄液に含まれる少量の間葉系幹細胞を拡大培養します。培養した間葉系幹細胞はいったん凍結保存され、品質・規格試験に合格したことを確認後、本院へ空輸され、患者

さんの肝臓に効率的に到達させるため肝動脈から投与されます。そして、投与後6ヶ月間にわたって安全性と有効性を確認します。本治験では、肝性脳症や腹水などの症状がある進行した非代償性肝硬変症が対象で、肝硬変症になった原因は問いません。

この自己完結型肝硬変再生療法の特徴は、(1)患者さん自身の骨髄由来細胞を使用するため、投与時の免疫拒絶や副作用が起こりにくい(2)間葉系幹細胞を効率良く培養するため必要な骨髄液が少量となり、骨髄液採取時に全身麻酔を必要とせず低侵襲である(3)細胞培養を自動化したため、安定した品質の培養細胞を低コストで製造できることなどがあります。

※本治験についての個別の電話相談は受け付けておりません。ホームページにある案内をご確認のうえ、かかりつけ医にご相談ください。

自己完結型肝硬変再生療法の治療の流れ

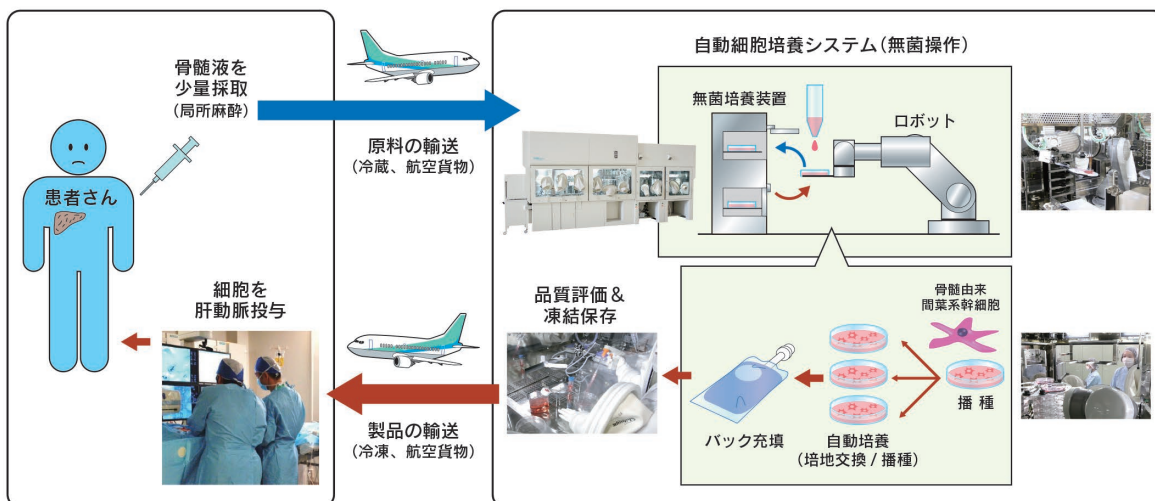
山口大学
医学部附属病院



シブヤ
細胞培養加工センター



特定細胞加工物
製造許可証



革新技术！体外からがん組織を深部まで観察できる 近赤外蛍光・有機シリカナノ粒子の作製に成功

～がん医療における“診断と治療の一体化(セラノスティクス)”の実現に一步前進～

くわしくは、
こちらへ

大学院医学系研究科器官解剖学講座の中村教泰教授のグループは、徳島大学大学院医歯薬学研究部の安倍正博教授、九州大学歯学研究院の林幸吉朗准教授のグループと共同で、蛍光生体イメージングで体外からがん組織を深部まで観察できる近赤外蛍光・有機シリカナノ粒子の開発に成功しました。

蛍光生体イメージング診断法は、がんの早期発見や術中観察など医療や医学研究への活用が期待されています。本研究チームはがん組織を体外から観察できるだけでなく、励起光の波長を調整するこ

とにより表面から深部まで深さを調整しながらがん組織を観察することに成功しました。

米国では本研究成果と同様の近赤外蛍光シリカナノ粒子が、がん造影剤として既にヒト臨床試験が進められ、診断薬や治療薬としての開発が進んでいます。治療効果を持った近赤外蛍光・有機シリカナノ粒子の開発も進行しており、本研究成果はがん医療における“診断と治療の一体化(セラノスティクス)”の実現に繋がるものです。



保健学科山根教授が 「チャレンジやまぐち!地域貢献賞」を受賞しました

大学院医学系研究科保健学専攻 山根俊恵教授が代表を務める特定非営利活動法人「ふらっとコミュニティ」が、令和2年度チャレンジやまぐち!地域貢献賞を受賞しました。

同賞は山口県が地域づくりの推進力となる県民活動を推進するため、県民活動団体や社会貢献活動に取り組む事業者等の特に優れた取り組みを表彰するものです。本年度は5団体が受賞しました。

10月28日(水)に山口県庁にて表彰式が行われ、村岡知事より表彰状が授与されました。「ふらっとコミュニティ」は、平成17年に設立され、精神障害者や引きこもり者とその家族が地域の中で安心して暮らせる地域社会づくりを目指し、相談窓口や居場所の設置、

就労支援、ネットワークの構築や情報提供などの支援活動を行っています。

山根教授は、「地域課題を解決するために宇部市と協働して取り組んできたことが、このような形で評価されたことを大変嬉しく思います」と受賞の喜びを語りました。

同法人は、8月にも第54回社会貢献者表彰を受賞しました。同賞は、公益財団法人社会貢献支援財団より、社会福祉の増進や青少年の育成などへの多年にわたる功労、緊急時の人命救助など広く社会のために貢献した者に贈られます。8月に東京にて表彰式が行われ、安倍会長より山根教授に賞状が授与されました。



緩和ケアセンター

緩和ケアとは

緩和ケアとは、がん患者さんの痛みやだるさ、不安などの心と体の苦痛を取りのぞき、患者さんとご家族にとって、自分らしい生活を送れるようにするためのケアです。緩和ケアはがんと診断されたときから、がん治療と一緒に受けることができます。



緩和ケアセンターは、心と体のサポートチーム（緩和ケアチーム）や症状緩和外来、がん看護外来など緩和ケアに関する活動を統括し、当院の緩和ケアを推進する働きを担います。

また、がん・悪性腫瘍の患者さんおよびご家族の苦痛のスクリーニングや、多職種によるチームアプローチにより適切な支持・緩和療法を行い、対象者の身体的、精神的、社会的側面についてQOL（生活の質）の向上を援助することを目的としています。山口県がん診療連携拠点病院として、緩和ケアに関する教育・啓発活動、他の医療機関との連携を図りながら診療支援を行います。緩和ケアに関する情報を収集し分析するとともに、医療従事者、地域住民に対し情報を提供します。

心と体のサポートチーム

専門職員が連携してあなたの辛さを和らげるサポートをします！



退院調整看護師	できる限り患者さんの望む場所で療養生活が可能となるよう、担当医や患者家族、院内外のみ職種と調整し連携します。	身体症状担当医師	患者さんの苦痛な症状を緩和し、少しでも良い状態で治療を受けたり、過ごすことが出来るよう支援します。
管理栄養士	化学療法や放射線治療等で起きる味覚変化・口内炎・口腔内乾燥・吐気等による食欲不振を栄養から支えます。	精神症状担当医師	睡眠やうつ症状などの精神的つらさに対して治療を行います。
作業療法士 (OT)	患者さんが日常生活や仕事、趣味活動を継続できるように動作指導や助具の提案、他職種との情報共有を行います。	看護師長 (GM)	院内外で早期からの適切な緩和ケアの提供体制が構築できるよう、調整や連携、情報発信を行います。
理学療法士 (PT)	心身の機能低下を予防するために運動療法や基本動作練習等を行い、生活の質の向上を図っていきます。	がん看護専門看護師	がんになっても安心してその人らしく生活ができるよう院内外の様々な職種と連携してサポートしていきます。
言語聴覚士 (ST)	言葉によるコミュニケーションに問題がある方や、口から食べる事に問題がある方に対して支援する専門職です。	緩和ケア認定看護師	患者さんやご家族とコミュニケーションを図りながら、伴走者として寄り添い支援します。多職種との調整役も担います。
臨床心理士	治療中でも、患者さんやご家族がその人らしく過ごせるように不安や心配事の解決策を一緒に考えていきます。	薬剤師	患者さんには安心されるように、主科には信頼されるように、仲間には慕われるように薬物療法を保障します。
		医療ソーシャルワーカー	医療費や退院後の生活など、病気に伴って起こる経済的・心理的・社会的な相談に対応しています。

Topics

サビエルカンパーナがオープンしました

11月16日(月)、本院 B 棟 2F にベーカリーカフェ「サビエルカンパーナ」がオープンしました。

山口市のサビエル記念聖堂のふもとにあるベーカリーカフェ「サビエルカンパーナ」より、毎日焼き立てパンを直送。厳選した最高級の有機小麦や米粉、自家製天然酵母を使用したパンなどを多数そろえるほか、パニーニやパスタ、ケーキ、フルーツ、コーヒー、各種ドリンクも提供します。

【営業時間】 平日 8:00 ~ 17:00 / 土・日・祝日 休業





ラジオ「大人ウォーク」に出演しました

毎年10月に行っている緩和ケア市民公開講座は、新型コロナウイルスの影響拡大に伴い、現地での開催を見送りました。その代替としてエフエム山口「大人ウォーク～今宵は山大～」に緩和ケアに関わる医師2名が出演し、お話しさせていただきました。山口大学広報室YouTubeチャンネルで公開していますので是非ご視聴ください。



- 「正しく知ろう!緩和ケア～いま、伝えたいこと」
緩和ケアセンター 山縣裕史 助教
- 「がん治療におけるつらさと緩和ケアの役割」
精神科医 松原敏郎 准教授



山口大学YouTubeチャンネル

緩和ケアチームから「いま、伝えたいこと」をHPに掲載しています

市民公開講座の現地での開催見送りに伴い、緩和ケアチームから「いま、伝えたいこと」を緩和ケアセンターHPに掲載しています。緩和ケアについてもわかりやすく解説していますので是非ご覧ください。



緩和ケアセンターHP

緩和ケアセンターで相談できること

- がんに伴う痛み、だるさ、息苦しさなどの、体のつらさ
- 治療の副作用による吐き気や食欲がないなどの症状
- 気持ちの落ち込み、眠れないなどの心のつらさ
- 医療費についての不安
- 仕事や学校と治療の両立
- 治療後の体力低下
- 退院後の生活の不安
- 家族として患者さんをどう支えたらいいか



ミーティング風景

| 栄養治療部 | 季節のレシピ ㊦

家にある物で簡単におやつ&おつまみができます。
カルシウムの多い食材を使って、手軽にカルシウム補給しませんか。

カルシウムたっぷり 簡単えびせんべい

直径25センチ1枚程度

- 冷ご飯…70g
- 干しエビ…3g
- ごま…3g
- ごま油…小さじ1
- 粉チーズ…10g

1. 干しエビを刻む。
2. ①と冷ご飯、ごま、ごま油、粉チーズをポリ袋に入れ、もみこんでよく混ぜ合わせる。
3. クッキングシートの上に②をのせ、挟みこむように上にもシートをかぶせる。
手で押し付けながら薄く延ばす。
4. 上のシートをはずし、電子レンジでパリパリになるまで加熱。焦げないよう様子を見ながら加熱する。(500Wで3分を2回)
5. 食べやすい大きさに割って出来上がり。
塩気が足りない場合は、表面に醤油を薄くぬる。(なくてもおいしい)



カルシウムについて

カルシウムは骨・歯の形成、たんぱく質代謝、ホルモン分泌などに関与。特に日本人には不足しやすい栄養素。リンや塩分の過剰摂取で吸収が阻害されるので注意。ビタミンD(魚・きのこ類)やビタミンK(納豆・緑黄色野菜)、ビタミンC(果物)などと一緒にとるのがおすすめ。

参考文献:「食の医学館」、「栄養と料理」



今、安心して医療を受けていただくために

新型コロナウイルスの感染のリスクを恐れ、医療機関の受診を自粛することで、原疾患の治療や疾病の早期発見が遅れる可能性があります。

山口大学医学部附属病院では、入院前のPCR検査など、厳重な新型コロナウイルス感染症対策を実施しています。



地域の基幹病院および特定機能病院として、本来の診療機能を維持し、これまでどおりの安全・安心な高度医療を提供しています。

新型コロナウイルスを持ち込まない・見逃さない

本院の感染予防対策



病院への入館確認・面会禁止

入館箇所を1ヶ所とし、入館時に体調などの確認や検温をお願いしています。また、入院患者さんへの面会も制限しております。



マスク着用と手指消毒

患者さん、付き添いの方など、病院に入館される方全員に、マスクの着用と手指消毒をお願いしています。



入院患者さんへのPCR検査の実施

本院に入院、通院される患者さんの多くは重症度が高く、新型コロナウイルスの感染により原疾患が重症化する恐れがあります。

全ての患者さんに安心して診療を受けていただけるよう、入院される患者さんに入院前PCR検査を受けていただいております。



最新情報はHPをご覧ください

山口大学医学部附属病院

検索



公式Facebookページで
山大病院の情報を配信中!!



山口大学医学部・附属病院

山口大学医学部広報委員会・山口大学医学部総務課総務係
〒755-8505 山口県宇部市南小串1丁目1番1号 TEL 0836-22-2111
医学部 <http://www.med.yamaguchi-u.ac.jp/>
附属病院 <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>